故に信仰の對象としては唯一絶對久遠本佛あるのみである。九界の衆生はこの信解によりて本佛に歸納し、やがて一元的に還元して行くならば、所謂通一佛な境界唯一久遠本佛の世界となる。かくて救濟は久遠本佛の上に成就せられ、吾等の卽身成佛も文字通り實現せられるのである。

信仰界の饑饉

金川龍洸

一

十九世紀の主我的文明は歐州戰亂といふ一大慘禍を生み出した。こゝに其の反動として勃然として宗教的要求は湧いて來た。而し在來の宗教的要求は多くは現世的幸福の追求であるか。さもなくば來世的享樂の要求で有つた。然し今や自我及人生の秘義に就いて思念を凝らし、そが根本的解決を求めてきた。

かくて眞劍なる求道者は我々教家に當つた。ところが悲しいかな、其の多くはパンを求めて石を與へらるゝの悲哀を感じた。布教家の說教は餘りに老人むきで、若き求道者の心には觸れるところが少なかつた。そして學者の講演は其の說く所は幽玄であるが、信仰的潤ひに乏しかつた、其の爲に若き求道者は失望した。そして宗教家の一般は、社會的活動はせず、唯だ職業的に生活の爲めに動いてゐるを見、遂には、宗教家の無能を口にし始めた。折角起つた宗教的要求を放棄して現代青年はまさに

社會思想に藝術に又哲學等に熱中しつゝある、實に遺憾の極みではないか。

二

現下の傾向を是の如く見る吾人はこゝにその原因の主なるものは何處にあるかを見、而して之れが善後策に就いて僅かに管見を陳べて見たい、吾人はこの傾向の生じつゝある主要原因は現時の宗教家の無信仰と云ふ点にあると思ふ。もとより其の他に擧ぐべき數個の原因もあるが、しかし其れは主要原因ではない。宗教は理解や知識を與へるものではなくて、生命の問題であるから、其の指導の任に當る人に其の体驗がなかつたならば殆んど其の鼓吹は無効に終るものである。

或人は理解さへあれば体驗はなくとも、と云はうとするが、そは却つて其の人の宗教についての無理解を立証するもので、宗教は体驗なくして說かるゝものではない、現在我國に於ても宗教家が幾十萬を數へる事が出來るが、其の多くは布教家か學究家、事務家、であつて眞の宗教家は稀であらう。現時の求道者は其の眞の意味に於ける宗教家を求めた。しかし殆んど之に遇ふ事は出來なかつた。此處に於いて現代の宗教家の多くは信仰を持たない似而非宗教家であるときめた、而してまさに宗教より離れんとしてゐる。

三

現代宗教家の無信仰……吾人の敬愛する教界の先輩諸士よ、如何に此の言葉を見られるであらうか。吾人は此の言葉を耳にする時、全身懺悔を以て戰かざるを得ない、吾人は常に聞く、宗祖は實に、我等の生命である。題目は刻々に自己を生かしめつゝある魂の糧であると。此の一句を口にし筆にする時暫く口を閉ぢ筆を置いて自らにたづねる、宗祖は果して吾人の生命となつて刻々に魂を潤してゐる

か、其の時口のにぶり筆の動きにくゝなるのを感ずる、又云ふ唱題は法悦の心より湧き出ずる生命の叫びであると。其の時再び反省して見る、自己の唱題は果して法悦に潤へる生命の叫びとなつてゐるか、其時再びたじろかざるを得ないのである、日蓮大聖人が『夫佛道に入る根本は信を以て本とす五十二位の中には十信を本とす十信の位には信心初也』云云と、又曰く『相構々々て强盛の大信力を致して南無妙法蓮華經臨終正念と祈念し給い乃至信心の血脈なくんば法華經を持つとも無益也。』云云と云はれてある如く吾人等の無信仰を嚴しく誡められたものであつて、同時に信仰なきものは人に說く資格は無論ないのである。而し信仰は早速得ようとして直ちに得られるものではない、又得られないからと云つて宗教家が皆教を說く事を止める事も出來ない、さりとて、信仰のないのに有る樣に見せかけたり、よい加減の獨りきめをする事もよくない事で有る。又信仰はなくとも、信仰に就いての理解さへ有ればと云ふ樣な逃避の路を取る事も眞劍な態度ではない。

四

こゝに私は尠くとも實感から次のことを云ふことが出來る。自分に信仰なく而も宗教家の立場に居る吾人等は、よい加減の獨りぎめや逃避の路を見出すことをやめて、せめて無信仰にして說く事の大膽さを痛感することである、もし辯解の道を考えて其の心持を以つて教導に當るならば人をして信ぜしむる事の出來ないのみならず自己も遂に痲痺されて、眞の宗教的要求は終世起らずして止むであらう。實に悲慘の極みである。もし反省深く自己の無信仰を痛感しつゝ傳道するならば人に教へながら自らも信仰に導かれて遂には自他共に以信得入の佛惠の境地に至るに相違ない。

不徹底な境地に於て安住してゐるものよりは、より高きものを求めて苦しめるものゝ方が、はるか

に貴い。中學を出てすましこんでゐるものよりは高等學校に入るべく血眼になつて苦しんでゐる者の方が値打がある。不信仰のまゝ互に裝ひつゝある世界には眞實の者は生れてこない。

五

現代教家の內省すべき点は正にこゝにあり、將に離れんとする若き求道者を呼び戻す力は此の內省から生れる、こゝ十年間に信仰に我が教家の大部分が覺醒しなかつたならば如何に我家の教理が深遠でも幾千の布教家が働くとも、澎湃としてみなぎりつゝある社會思想の影響と、而して巧なる手段を以て我佛教界の牙城を侵蝕しつゝある異教徒の爲めに遂に實勢力は地をはらふに至るであらうとは、只に若輩の吾人の豫言のみではない。我等教家は少しく眼光を大にして教界百年の大計の爲めに各自熟考すべきであらう。

若き同輩は集れば何んとかせねばならぬと、口々に云ふ、然し未だ何ともされてゐないではないか。此際具体的な施設など第二義第三義的なものである。唯だ最も急を要する問題は信念に燃えて何人も燒きつくさずに居らない信仰界の麒麟兒の出現を俟つのである。大聖人曰く『日蓮魁けしたり和黨共二陣三陣つゞきて迦葉阿難にも勝れ、天台傳教にも超へよかし』云云　二陣三陣の日蓮今何處にありや。現下の教界が此の信念の人をまつや實に大旱の雲霓をまつよりもなほ急なものがある。開宗七百年の地盤ある、我が教界は其の上に勝れたる教理を持つてゐる强みがある。唯弱みは信仰界の廢頽と云ふ一點ではあるまいか。　七、九、一、